

■リニア中央新幹線のルート

リニア中央新幹線の整備の在り方を検討する交通政策審議会の小委員会は、南アルプスを貫通する「南アルプスルート(直線ルート)」を望ましいルートとすることなどを盛り込んだ中間報告を2010年10月に取りまとめた。また、JR東海は、2027年に東京(品川)―名古屋間の開業をめざしているリニア中央新幹線計画を前倒しし、約10年後に神奈川県相模原市―山梨県甲府市周辺の区間で先行開業を検討することや、3年後には希望者を対象とする有料試乗を開始したいという計画も検討しており、リニア中央新幹線の建設が現実味のある話として報道されている。

地図帳の中部地方または関東地方の一般図をよく見ると、「山梨リニア実験線」が表記されている。生徒にそれを延長するように地図を指でなぞらせてみれば、東京から名古屋までを直線的なルートで建設することが、地形的にかなり厳しいルートであることは、容易に読み取ることができるだろう。

計画によれば、リニア中央新幹線が直線ル

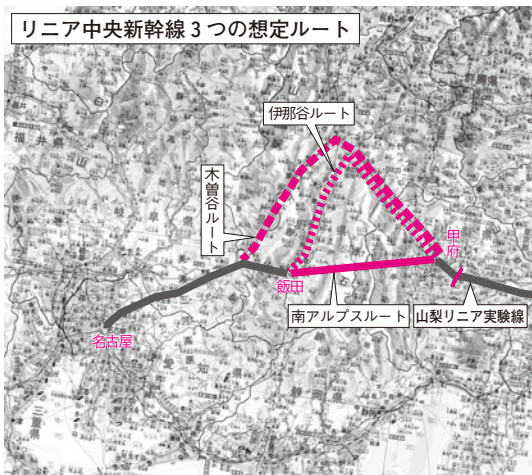
ートで開業した場合、東京―大阪間は約67分で結ばれることになる。このことを導入にして「関東と関西を結ぶ」という視点で中部地方の地図を活用すれば、さまざまな学習へと発展させることができる。

まず、「日本の地形の特色」の学習では、南アルプスを貫通させるトンネルの工事を想像させたり、中部地方の交通網がフォッサマグナやその他の盆地をたどるようなルートで結ばれていることを読図をさせたりしながら、中部地方を中心として山がちな国土のようすを具体的に学ばせることができる。

また、中部地方を通過する交通に着目すれば、「地域間の結びつき」について、東京―大阪間のさまざまなルートでの人や物の移動を、新幹線、在来線、高速道路、航空機、航路などがどのように使い分けられているのか、地図から考えさせたり、調べさせるような学習も計画できる。実際、東京―大阪間の高速バスの中には、中央高速道を経由する割安のものがあつたり、ドライバーが割引料金や所用時間を考慮しながら高速道路のルートを使い分けたりしているケースも見られる。このような発想で、公民的分野の経済単元の学習で、地図を見ながら「流通」のシミュレーションをすることも可能である。

歴史的な学習内容も地図を使うと学習が豊かになるだろう。街道の交通に関することを例にすれば、川止めがある東海道のルートを避けて、あえて中山道を利用する人も少なくなかったことや、皇女和宮が降嫁したときをはじめとして、皇族は警備の面からも中山道を利用する場合が多かったことなどの歴史的な事象も、地図を活用しながら学習すれば、生徒の理解が一層深まることだろう。

(さいたま市立白幡中学校 青柳敬二)



「中学校社会科地図 初訂版」p.91～92